

■ 室蘭港大型客船航行安全対策検討委員会について

室蘭市港湾部 総務課

室蘭港は、北海道南西部の内浦湾(別名噴火湾)東端に位置しており、港内は噴火湾にむかって突き出した絵鞆半島により太平洋から遮断され、天然の良港とされています。

室蘭港では、これまで11万トン級及び13万トン級の大型客船が安全に入出港している実績があります。

平成21年度から平成27年度までに、11万トン級は8回、13万トン級は5回、入出港しています。



平成27年9月12日 入港する13万トン級大型客船「マリナーオブザシーズ」と歓迎する市民

現在、室蘭港は北海道で初の16万トン級の大型客船を受け入れるため、入出港に必要な船舶航行安全対策を策定することを目的に、「室蘭港大型客船航行安

全対策検討委員会」を設置し、航行安全上の課題を抽出しました。

第1回 室蘭港大型客船航行安全対策検討委員会

平成28年4月15日に、室蘭市役所において行われた第1回検討委員会において、以下の議題が取り上げられました。

1. 事業計画について
2. 大型客船の受入れ計画の概要
3. 室蘭港の現況について
4. 入出港操船の安全性について
5. 係留中の安全性について
6. ビジュアル操船シミュレーションの実施方法について

まず当該客船の航行安全対策検討業務の事業計画について説明が行われ、入港までのスケジュールなどを確認しました。

受入れ計画の概要では、該当客船の諸元と、受入れ岸壁の説明を行いました。

次に室蘭港の現況について、位置情報や沿革に続き、利用状況や気象情報が主に説明されました。

入出港操船の安全性にあつては、船尾アジポッドと船首スラスタを駆使する当該客船の性能をもとに、入出港と岸壁への接近、回頭、接岸・離岸方法の解説があり、ビジュアル操船シミュレーションでの検証方法の説明がありました。

係留中の安全性では、係留索の状況と、風の影響について説明されました。

最後に、ビジュアル操船シミュレーションについて、装置の説明と、シミュレーションにおける想定内容の説明があり、質疑応答が行われ、表現の修正などの課題を受け、終了しました。

ビジュアル操船シミュレーションの実施

4月26日、27日の両日、第1回検討委員会において説明された内容にそって、東京の株式会社MOLマリンにおいて、ケース1から8までの想定でシミュレーションを行ったのち、最後に想定を1つ追加し、計9回のシミュレーションを行い、いずれも特段の問題が無く入出港できることを確認しました。

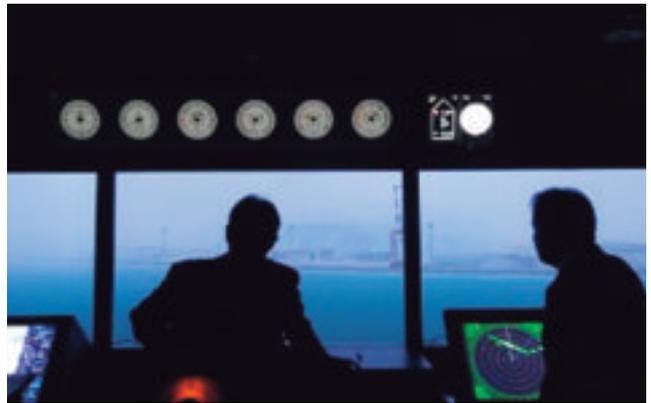
主な確認点は、霧の発生による視程状況、様々な風速及び風向、昼夜の違い、右舷付けと左舷付けの進路や回頭状況の違いなどで、当該船舶の航行性能に合わせ、実際にブリッジから見る風景での指示や操船方法を確認しました。



ビジュアル操船シミュレーター



アジポッド操作パネル



霧中による視程でのビジュアル操船シミュレーションの様子

第2回 室蘭港大型客船航行安全対策検討委員会

6月7日に、同じく室蘭市役所において行われた第2回検討委員会においては、以下の議題が取り上げられました。

1. 第1回委員会議事概要案について
2. 第1回委員会の課題と対応について
3. ビジュアル操船シミュレーション結果をふまえた入出港操船の検討について
4. 船舶航行安全対策の策定について
5. 報告書案について

議事概要について確認を行ったのち、課題と対応について事務局より説明がありました。

次にビジュアル操船シミュレーションの結果が説明され、具体的な操船の内容と、それに基づいた安全対策を検討しました。

最後に報告書案の内容について意見が交わされ、2回にわたる検討委員会は終了しました。



第2回委員会の様子

2回の委員会とビジュアル操船シミュレーションにより、16万トン級大型客船においても室蘭港の安全性が具体的な数字をもって確認されたことから、室蘭港は大型客船が寄港できる安全・安心な港として、ポートセールスを行っていきます。